

令和7年度 第1回江南市地域福祉計画推進委員会 会議録

日 時：令和7年8月6日（水） 午後3時00分～5時00分

場 所：江南市防災センター 3階 仮眠待機室・救護室

出席者：会 長 柏原 正尚 副会長 武田 篤司
委 員 中野 実 委 員 大山 智久
委 員 青山 多佳子 委 員 永田 裕美子
委 員 高橋 正博 委 員 佐藤 豊子
委 員 三ツ口 文寛 委 員 伊代田 誠二
欠席者：委 員 中村 祥 委 員 村瀬 晴美
委 員 野呂 美鈴

事務局：江南市ふくし部長、地域ふくし課
江南市社会福祉協議会事務局

傍聴者数：1名

1. 会議次第

副会長後任者の承認について（資料1・2）

1. あいさつ
2. 第2次計画の令和6年度の実績・評価等について及び令和7年度各指標における目標値について（資料3）
3. 重層的支援体制整備事業について及び計画の策定体制について（資料4）（資料4-2）（資料4-3）
4. 今後のスケジュールについて（資料5）
5. その他

2. 会議経過

副会長後任者の承認について（資料1・2）

（事務局）

資料1の説明、事務局案として後任の武田委員を副会長とすることについて

（委員）

異議なし

（事務局）

武田委員を副会長とします。

1. あいさつ

（会長）

皆さんこんにちは。今年の夏も暑いですが、委員の皆様にもこれくらい熱い議論をしていただければと思います。よろしくお願いいたします。

2. 第2次計画の令和6年度の実績・評価等について及び令和7年度各指標における目標値について（資料3）

（事務局）

資料3のうち基本目標1（1ページから6ページまで）を説明

（会長）

意見・質問の有無を確認

（会長）

1ページの指標はシンポジウムの開催の回数となっているが、目標値1回に対し実績値1回で100%になっている。目標値1回を指標とするなら結果は0%か100%かどちらか、つまり晴れマークか雨マークかどちらかになるので、実施したか実施していないかを指標にする方法もあると思うがどうか。

（事務局）

第2次の計画を策定する中で、事業評価のための指標は全て数値化するという方向性であったため、進捗管理のための指標は全て数値で表しているが、指摘のことについては参加者数を指標にするなど、第3次計画に向けて検討すべきことかと思う。

（会長）

現状分析と課題の欄にはうまくいかなかった部分も書いてあるが、評価が100%の晴れマークになってしまうので、ミスリードする可能性もある。開催はしたけどうまくいかなかった部分があるなら、曇りマークになるような工夫があってもいいのではないか。これから11年度まで続けるなら、しっかりとした評価が残っていくように検討をお願いしたい。

（事務局）

晴れマーク、雨マークというのは数値をとらえる中で、機械的にやっている部分ではある。内容の分析を踏まえた上で、評価シートをどのように見せていくかについては来年に向けて検討していきたい。

（会長）

他に意見はないか。

（委員）

4ページの社会福祉関係の団体数、参加人数のなかで、令和6年度の実績値よりも7年度以降の目標値は減少していく傾向にあるため、方針として抑制していく方向に見えてしまう。この評価の見方が分かりにくい。

（事務局）

今後も高齢化が進展していく中で社会福祉関係の団体数、参加人数は、増やしていきたいという思いはあるものの、減少していく推計をせざるを得ない状況である。現在活動参加者の獲得に向けて具体的な取組みを始めているが、まだ成果が表れる段階ではない。こうしたことから減少傾向の目標値となっているが、新しい取組みが実を結んで実績が出てくれば、その時点で目標値を上方修正することも出来るので、しっ

かりと取組みを進めていきたい。

(会長)

関連して4ページで、参加人数は評価が曇りマークとなっているが、下げていく方向性の中で実績が目標値よりも低ければ評価はプラスではないかと思ってしまうので、表現の工夫が必要なのかと思う。

(事務局)

計画の進捗を評価するための指標としていろいろな数値を使っているが、見た目では目標値が増加しているか減少しているかということと、方針としてそれを上回ることがプラスなのか下回ることがプラスなのかということがあるため、分かりにくいものになっていると考えられる。市民の方がわかりやすく判断できるように検討したいと思う。

(会長)

このページは実績値として4年度から5年度は増えていて、それが6年度になると減っているので、余計に抑制する方向の指標なのかと思ってしまう。これは少しもったいない気がする。

それから5ページのボランティア養成講座の参加者数のシートで、現状分析と課題の欄には、受講者の減少と書いてあるが、6年度の実績値は5年度と比べて増えていて、目標値と同じの晴れマークになっている。開催する講座の種類によって増減が違ってもおかしくないが、目指す方向性として良いのか悪いのかニュアンスが伝わりにくいと思う。

(事務局)

実際のボランティア養成講座の参加者数としては、減少傾向にあるが、ICTを利用したLINEのオープンチャットなど、今までとは別の方法で参加できるプラットフォームを設けている。こちらの参加者をプラスしてカウントしたことで結果として5年度の101人から6年度は120人と増加した結果になっている。

(会長)

今までのボランティア養成講座とは違う概念の物が入っていることは分かったが、市民から見るとそのあたりが伝わりにくいので、説明が必要かと思う。

(事務局)

マイナスの部分とプラスの部分とが分かりやすいように、表現方法を検討していきます。

(会長)

指標の表現自体がボランティア養成講座参加者数となっているので、従来型の講座に見えてしまうが、別のやり方の方がニーズがあるので、やり方を変えていってるところが伝わると良いと思う。

(事務局)

資料3のうち基本目標2（7ページから11ページまで）を説明

(会長)

意見・質問の有無を確認

(会長)

8 ページは 4 ページと同じ指標であるが、社会福祉関係の団体数とはどういう団体を対象としているのか。

(事務局)

市が直接支援している団体が日赤奉仕団と更生保護女性会の 2 団体、あとは社会福祉協議会に登録のあるボランティア団体が 1 1 団体の合計 1 3 団体となっている。

(会長)

今は多様な団体が活動しているので、例えば保健センターや環境の関連分野でボランティア活動をしている団体もあると思う。地域福祉というものをもう少し広くとらえた時に、そういう団体を把握することも次期計画に向けての話になるが必要なのではないか。

(事務局)

これから重層的支援体制整備事業に取り組むなかで、地域の互助活動を支援する地域づくりが重要なキーワードになることから、福祉分野に限らずそういった団体と連携することは大切だと思う。SDGs の事業を所管している企画部門とも連携しながら、地域づくりを事業として進めていく中で、次期計画に向けての話になるが検討していきたい。

(会長)

最近では防災関係や環境関係のボランティア団体もかなり多いと思う。また、こども・子育て関係の団体も保健センターやこども関連部門とつながりがあったりするので、視野を広げて把握していくと良いのではないかと思うので検討して欲しい。

(委員)

9 ページの民生委員の相談件数は、目標値として 7 年度から 1 1 年度まで同じ件数としていて、1 1 ページの訪問件数は減少傾向にあるが、計画の中では今後、高齢者数は増えて独居や孤立のリスクは高くなると思うので、民生委員の方にもっと関わってもらいたいと思う。担い手不足の問題もあるかとは思いますが考え方はどうか。

(事務局)

民生委員はこの 1 2 月の改選で、現在の 1 4 6 名から 1 名増員して 1 4 7 名となる予定であり、現在手続きを進めているが、江南も含めて担い手不足は全国的な問題となっている。こうした状況の中で市としては、引き受けていただいている民生委員の方に過度な負担はかけられないと考えている。そのため地域において身近な相談窓口となっただいただいているが、それを市に繋いでいただければ、市でしっかりと受け止めて解決できるような体制を作っていきたいと考えている。

(会長)

民生委員の方の負担を考え合わせて、この目標値がMAXだという見方をすれば、実績値が下回ればプラスだという方向もあるように思う。9ページの相談件数や11ページの訪問件数の目標値を増やし続けるのも無理があると感じるし、当事者の民生委員の方からすれば、今以上にやれと言われるのもつらいことで、結局担い手不足につながってしまうのではないかと思う。このあたりについて、現状をお分りの委員の方に発言をいただければと思う。

(委員)

この数字を見て目標が達成されていないと言われるのは、やはり大変つらいと思う。数字を出して分かりやすくするのは理解できるが、ボランティアでやっているのに足りないからここまでやれと言われるのは、担い手不足につながるのではないかと感じる。

(会長)

やはり民生委員の方がやりがいを持って活動できるようなバックアップの体制を作っていないと、担い手を育成していくのは簡単なことではないと感じるし、この指標はマイナス面を見せていく厳しい状況になると思う。

(事務局)

民生委員の方が活動しやすい環境づくりに関連して、去年は引きこもりに関する研修会を実施したが、その中で引きこもりの問題をどこに相談したら良いか分からないという意見があった。市では去年、地域ふくし課を設置して生活困窮、高齢者、障害者、こどもなど全ての福祉相談の窓口を一本化するなど、今後も分かりにくいことや活動していく上での課題に対応していきたいと考えている。

(会長)

せつかくの機会なので、現状に詳しい方にもっと話を聞きたいがどうか。

(委員)

実際の現状はもっとリアルですごい。一例となるが住んでいる区域の民生委員さんが高齢独居のケースを抱えていて、4月頃から見守りの登録など勧めていたが、本人は拒否し続けて登録には至らない状態で、6月頃に孤独死の状態で発見されたことがあった。その民生委員さんは本当に落ち込んでいたが、聞いたところによると発見前の1カ月間、水道が全く使われていなかったらしい。入院などの事情でそういうこともあると思うが、そういう情報を連絡してくれれば、もっと早く見に行くこともできた。その後その民生委員さんは、暑い中で気になる世帯を1件ずつ訪問して様子を見て回ったが、気温が高いのにエアコンを使っていなかった家があった。

また、安否確認という点では、こちらから訪問するだけでなく、朝の散歩で見たとか、近所のスーパーに来ていたとか他の人から教えてもらえることもあるので、担当地区の住民とそうした関係性を作っていけば、負担の軽減にもつながると思う。

(会長)

地域でサロンを運営している方や、専門職などとの関係性の構築や、情報の共有に市が関わっていくことも重要なことと感じる。そういう部分を進めていかないと、この指標の目標値の設定は大変になる。平常時の活動に余裕がないと緊急時に十分な活

動ができないという視点もあるので、この指標の課題は結構あると思う。

(委員)

普段から地域住民との関係性を作って、情報が入ってくるようにしていくと、活動がやりやすくなる。

民生委員の担い手不足は深刻だが、退任する民生委員が後任候補の方をお願いしに行ったときに、民生委員の方には世話になったことがあったので、快く後任を引き受けてくれたという事例もあった。普段の活動を見ている住民の方もいる。

(会長)

民生委員の方の中には、仕事をしながら活動しておられる方もいると思うが、それでも過度な負担なく活動できる環境を作っていくと、担い手不足の問題はなかなか解決しないのではないかと。他に発言はあるか。

(委員)

民生委員の活動については、担当するエリアの問題もあると思う。市街地や団地のエリアは狭いので1件1件の訪問に時間がかからないが、郊外の調整区域などはエリアが広いので、1件の訪問に時間がかかることで活動の負担が大きいのではないかと。思う。

(会長)

評価を図る指標として、単純な訪問回数では評価し切れないということはあると思う。エリアの問題もあるが、同じ1回の訪問でも5分で終わる場合もあれば、1時間かかる場合もあるので、こうした課題を踏まえてどういう支援体制が必要なのかを、皆さんと一緒に考えていければ良いと思うが、この指標の評価については、やたらと目標値の数字が増えていくというのはちょっと厳しいかと思う。

(事務局)

資料3のうち基本目標3（12ページから19ページまで）を説明

(会長)

意見・質問の有無を確認

(委員)

19ページの現状分析欄に記載のある更生保護部門とは何を指すのか。

(事務局)

犯罪を犯してしまった人の更生については、地域での生活に困難が生じるケースに関して、保護観察所から直接福祉部門との連携を求められることがある。こうした連携の体制を今後も継続、強化していくという方針を持っている。

(委員)

地域ふくし課が中心となって連携していくということで理解した。

(委員)

15ページの生活保護の廃止世帯数の指標は、廃止となった世帯数は書かれているが、新たに増えた世帯数との比較が分からないので、全体像として増加傾向か減少傾向か状況が分からない。減らすことばかりを目標にするのも問題があるように感じるがどうか。

(事務局)

生活に困窮した方が適正に保護を受給するのは当然のことであり、その中で就労などの収入増につながったため廃止となるものを指標の目標値としている。目標値を達成するために新規の保護受給の入り口を狭めたり、無理な廃止に持っていくことを目標としている訳ではないことを理解願いたい。また、生活保護の全体の状況としては、正確な数字を持ち合わせてはいないが、コロナ禍の影響や高齢化の進展による無年金者の増加により、少しずつ増えている状況にはあるが、大きく増加している状況ではないと認識している。

(会長)

この指標の評価については、廃止の数が増えればいいという単純なものではないと感じる。廃止となった世帯がどこかの支援に繋がったり、また就労がうまくいかなくて保護に戻ったりというケースもあるかも知れないので、数字を掴んだ上でどのように評価するのかといったところを、事務局には議論して頂きたい。

(会長)

12ページの高齢者人口に占める健康を保って暮らしている高齢者の割合は、これまでよりは目標値を上げることがそのまま評価につながる指標であるが、今後、高齢化が進展することで分母は増えていくなかで、目標どおりに今よりも実績値を上げていくことが本当に出来るのかは不安がある。調べた結果目標値に達したというだけでなく、目標達成のためには新たなサービスや方策の検討が必要な気がするがどうか。

(事務局)

地域福祉計画を策定した時に人口の推計を行っている。その結果によれば総人口は少しずつ減少していくのに比べて、65歳以上の高齢者人口は横ばいの状態となっており、結果として高齢化率は上昇していく結果となっている。分母は増えることはないにしても、その中で高齢化は進展するので、目標の達成について容易ではないと認識している。また、それを達成するための方策という点では、今年度と来年度にかけて介護保険事業計画と高齢者福祉計画を策定するが、その中でやはり介護予防により一層力を入れていく必要があるだろうと考えている。

(会長)

16ページ、17ページの障害者、障害児の指標はこれまでの実績値と今後の目標値ともに上昇しているが、キャパシティはどうなのか、今の状態でいっぱいなのかそれともまだ余力があるのか。

(事務局)

先ほどの高齢者の計画と同じ時期に、障害の方でも計画を作ることになるが、障害のサービス提供はずっと右肩上がりの実績となっており、今後も増加傾向にあると予測している。ニーズに合わせて新しい事業所が進出して来るなど、サービスを提供す

る側の動きも活発であるため、今後も需要、供給共に増え続けるだろうと考えている。

(会長)

ニーズが増えていることは分かるが、供給する体制も増えていることが参考にでも書いてあると安心できる気がする。

(委員)

知人で19歳くらいの発達障害の子を持つお母さんから、この子が入れるグループホームは江南市にあるのかと聞かれて、どこに相談すればいいか答えに困った経験がある。相談先が分からなくてお母さんも精神的に不安が大きくなっている状態であるが、どこに相談すればいいのか。

(事務局)

どこに相談していただいても適切な相談機関に繋がるという体制を作るのが、いま事業化に取り組んでいる重層的支援体制であると考えている。今は地域ふくし課に福祉相談の窓口を一本化しているが、重層的支援体制が始まれば相談先は1つではなく、あらゆる相談支援機関が連携をとることで、どこに相談しても速やかに適切な部署に話が繋がる体制を整えることになる。

(会長)

今はまだ過渡期ではあるが、相談窓口を1本に絞らずに、その方のなじみの相談窓口から適切に繋がる体制を作って、いろいろな所でいろいろな相談をしやすいことが大切だと思う。

(事務局)

ただいまの話は基幹相談支援センターの方で、詳しく状況を聞かせて頂く。

(会長)

13ページに基幹相談支援センターの指標がありますが、地域で暮らしている障害の方たちの相談を結構受けている状況になっている。センターは障害者関係の団体や支援機関とのつながりもあるので、ここに相談するのはいいことだと思う。地域福祉計画の推進の会議ではあるが、参加者の皆さんからこういう事例を出していただけてより理解を深め、それを地域に広げていただくことも意義のある事だと思う。

(委員)

現在、市内の小中学校はコミュニティスクールということで、特に防災の分野で地域の拠点になるという視点から、イベントとか避難所開設の訓練とかを行っており、学校と地域がつながる活動をしている。この活動と同じように学校と福祉がつながるような活動ができると良い。

また、学校関連の話で言えば、心の病を持ったお母さんに対しての支援は手厚くされているが、その家庭にいる子どもの支援が不足していて、家庭生活や学校生活に支障が出ているケースがあるので、子どもも含めて支援が届くと良いと思う。

(事務局)

保護者の方がそういった支援が必要な状態になれば、家庭内でもヤングケアラーな

どの問題が生じることは承知している。重層的支援体制は個別の支援を行うのではなく、世帯の抱える問題を丸ごと受け止めて、関係部署が連携を取りながら、各方面から必要な支援を行うことが出来るので、ぜひご相談を頂きたい。

(会長)

学校が地域と繋がっていくことは良いことであるが、子どもを守るという観点からすると開放しすぎるのも難しいという側面もある。学校と地域と行政の3つがしっかりと連携した上で少しずつ好事例を積み重ねていければ良いと思う。

たくさんの意見を出してもらったが、本日欠席の委員からも意見を出してもらっていると聞いている。この場で事務局に発表してもらいたい。

(事務局)

事前提出の意見・質問を発表（4点）

- ①防災、福祉制度や成年後見のことなど、行政と一緒に勉強会をしたい。
- ②福祉分野の担い手不足をどのように解消するのか。
- ③障害を持つ子や保護者と、サービス提供事業者との交流の場をもっと設けてはどうか。
- ④介護保険制度と障害福祉制度の融合は今後の課題であるが何か良い方策はあるか。

地域福祉計画の進捗管理とは直接の関係が薄い事ではあるが、貴重なご意見・ご質問として承り、関係部署に伝えさせていただく。

3. 重層的支援体制整備事業について及び計画の策定体制について

(資料4) (資料4-2) (資料4-3)

4. 今後のスケジュールについて (資料5)

(事務局)

資料4、資料4-2、資料4-3及び資料5について説明

(会長)

意見・質問の有無を確認

(会長)

法律に沿って重層的支援体制に移行していくという説明だったかと思うが、今後具体的に事業が始まっていけば、これも議論していただくことになっていくと思う。

5. その他

(事務局)

机上配布資料の説明

- ①ちいきの見守り冊子 vo. 1+2
- ②家族介護教室の案内
- ③社協子ども食堂
- ④江南キッチンカー子ども食堂
- ⑤ひと・コトこうなんマルシェ
- ⑥なつやすみ！こうなん未来ラボ

(会長)

意見・質問の有無を確認

(事務局)

長時間にわたる審議をありがとうございました。今年度はまた冬頃に次回開催を予定しておりますのでご協力をお願いします。以上で会議を終了します。